



迷惑呼 ID

- [迷惑呼 ID の概要, 1 ページ](#)
- [迷惑呼 ID の前提条件, 2 ページ](#)
- [迷惑呼 ID の設定タスク フロー, 2 ページ](#)
- [迷惑呼 ID の連携動作と制限事項, 10 ページ](#)
- [迷惑呼 ID トラブルシューティング, 12 ページ](#)

迷惑呼 ID の概要

迷惑なコールや危険なコールをトラックするために、迷惑呼 ID (MCID) 機能を設定できます。ユーザは、Cisco Unified Communications Manager がネットワーク上の着信コールの発信元を特定して登録するようにリクエストすることで、このようなコールをレポートできます。

MCID 機能を設定すると、次のアクションが実行されます。

- 1 ユーザが危険なコールを受信し、[迷惑呼 (Malicious call)] を押します (または、SCCP ゲートウェイに接続されている POTS 電話機を使用している場合は機能コード*39を入力します)。
- 2 Cisco Unified Communications Manager はユーザに確認トーンとテキストメッセージを送信し (電話機にディスプレイがある場合)、MCID 通知の受信を確認します。
- 3 Cisco Unified Communications Manager は、迷惑呼として登録されていることが示されているコールに対して、呼詳細レコード (CDR) を更新します。
- 4 Cisco Unified Communications Manager は、イベント情報を含むアラームおよびローカルの syslog エントリを生成します。
- 5 Cisco Unified Communications Manager は、MCID 呼び出しを、ファシリティ メッセージを介して接続されたネットワークに送信します。ファシリティ情報要素 (IE) は、MCID 呼び出しを暗号化します。
- 6 この通知を受信すると、PSTN または他の接続されたネットワークは、法的機関にコール情報を提供するなどのアクションを実行します。

迷惑呼 ID の前提条件

- MCID をサポートするゲートウェイおよび接続：
 - T1 (NI2) と E1 (ETSI) 接続に MGCP PRI バックホール インターフェイスを使用する PRI ゲートウェイ
 - H.323 トランクおよびゲートウェイ
- MCID をサポートする IP フォン

迷惑呼 ID の設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	電話機能一覧の生成	MCID 機能をサポートするデバイスを特定するためのレポートを生成します。
ステップ 2	迷惑呼 ID サービスパラメータの設定, (3 ページ)	Cisco Unified Communications Manager が MCID インジケータで呼詳細レコード (CDR) にフラグを設定できるようにします。
ステップ 3	迷惑呼 ID アラームの設定, (4 ページ)	システム ログにアラーム情報が表示されるようにアラームを設定します。
ステップ 4	迷惑呼 ID のソフトキーテンプレートの設定, (4 ページ)	MCID でソフトキーテンプレートを設定します。 (注) Cisco Unified IP Phones 8900 および 9900 シリーズは、機能ボタンを使用する MCID のみをサポートします。
ステップ 5	共通デバイス設定とソフトキーテンプレートの関連付け, (5 ページ) を行うには、次のサブタスクを完了します。 <ul style="list-style-type: none"> • 共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加, (6 ページ) • 電話機と共通デバイス設定の関連付け, (7 ページ) 	これはオプションです。ソフトキーテンプレートを電話で使用可能にするには、この手順または次の手順を実行する必要があります。 共通デバイス設定 を使用して設定オプションを電話に適用する場合は、この手順に従ってください。これは、電話機でソフトキーテンプレートを 사용할できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。
ステップ 6	電話機とソフトキーテンプレートの関連付け, (7 ページ)	これはオプションです。ソフトキーテンプレートと共通デバイス設定を関連付けるための代替

	コマンドまたはアクション	目的
		手段、つまり共通デバイス設定との連携のために、次の手順を使用します。ソフトキーテンプレートを適用して、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] での割り当てや、他のデフォルトのソフトキーの割り当てを上書きする必要がある場合は、次の手順を [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] と共に使用します。
ステップ 7	<p>[迷惑呼 ID (Malicious Call Identification)] ボタンの設定, (8 ページ) を行うには、次のサブタスクを完了します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 迷惑呼 ID 電話ボタンテンプレートの設定, (8 ページ) • 電話機とボタンテンプレートの関連付け, (9 ページ) 	MCID ボタンを電話機に追加および設定するには、この手順を実行します。

迷惑呼 ID サービスパラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager が CDR に MCID インジケータのフラグを付けられるようにするには、CDR フラグを有効にする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、Cisco Unified Communications Manager のサーバ名を選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco CallManager] を選択します。
[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [システム (System)] エリアで、[CDR 対応フラグ (CDR Enabled Flag)] フィールドを [True] に設定します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[迷惑呼 ID アラームの設定, \(4 ページ\)](#)

迷惑呼 ID アラームの設定

[ローカル Syslog (Local Syslogs)] で、アラーム イベント レベルを設定し、MCID のアラームをアクティブにする必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability で、[アラーム (Alarm)] > [設定 (Configuration)] を選択します。
[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択し、[Go (移動)] をクリックします。
- ステップ 3 [サービスグループ (Service Group)] ドロップダウンリストから、[CM サービス (CM Services)] を選択します。
[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウが設定フィールドによって更新されます。
- ステップ 4 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco CallManager] を選択します。
- ステップ 5 [ローカル Syslog (Local Syslogs)] で、[アラーム イベント レベル (Alarm Event Level)] ドロップダウンリストから [情報 (Informational)] を選択します。
[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウが設定フィールドによって更新されます。
- ステップ 6 [ローカル Syslog (Local Syslogs)] で、[アラームを有効にする (Enable Alarm)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7 すべてのノードについてアラームを有効にする場合は、[すべてのノードに適用 (Apply to All Nodes)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8 情報アラームをオンにするには、[更新 (Update)] をクリックします。

次の作業

[迷惑呼 ID のソフトキー テンプレートの設定, \(4 ページ\)](#)

迷惑呼 ID のソフトキー テンプレートの設定



- (注) Skinny Client Control Protocol (SCCP) IP Phone は MCID 機能を呼び出すためにソフトキーを使用します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] を選択します。[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 新しいソフトキー テンプレートを作成するには、以下のステップを実行します。それ以外の場合は次のステップに進みます。
- [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - デフォルトのテンプレートを選択して、[コピー (Copy)] をクリックします。
 - [ソフトキー テンプレート名 (Softkey Template Name)] フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 3** 既存のテンプレートにソフトキーを追加するには、以下のステップを実行します。
- 検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックします。
 - 既存のテンプレートを選択します。
- [ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [デフォルトソフトキーテンプレート (Default Softkey Template)] チェックボックスをオンにし、このソフトキー テンプレートをデフォルトのソフトキー テンプレートとして指定します。
- (注) あるソフトキー テンプレートをデフォルトのソフトキー テンプレートとして指定した場合、先にデフォルトの指定を解除してからでないと、そのテンプレートは削除できません。
- ステップ 5** 右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから [ソフトキー レイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 6** [コールステートの選択 (Select a call state to configure)] フィールドで、[接続済み (Connected)] を選択します。
- [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] のリストによって、このコールステートで利用可能なソフトキーの表示が変わります。
- ステップ 7** [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] ドロップダウンリストで、[悪意のあるコールのトレース (MCID) の切り替え] を選択します。
- ステップ 8** [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストから追加するソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] リストにそのソフトキーを移動します。新しいソフトキーの位置を変更するには、上矢印と下矢印を使用します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。

共通デバイス設定とソフトキー テンプレートの関連付け

これはオプションです。ソフトキー テンプレートを電話機に関連付ける方法は 2 つあります。

- ソフトキー テンプレートを [電話の設定 (Phone Configuration)] に追加する。

- ソフトキーテンプレートを共通デバイス設定に追加する。

ここに示す手順では、ソフトキーテンプレートを共通デバイス設定に関連付ける方法について説明します。システムが共通デバイス設定を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従ってください。これは、電話機でソフトキーテンプレートを使用できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。

別の方法を使用するには、電話機とソフトキーテンプレートの関連付け、(7 ページ) を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加、(6 ページ)	
ステップ 2	電話機と共通デバイス設定の関連付け、(7 ページ)	

共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を選択します。
[共通デバイス設定の検索と一覧表示 (Find and List Common Device Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 新しい共通デバイス設定を作成し、それにソフトキーテンプレートに関連付けるには、以下の手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - [名前 (Name)] フィールドに、共通デバイス設定の名前を入力します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 3** 既存の共通デバイス設定にソフトキーテンプレートを追加するには、以下の手順を実行します。
- 検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックします。
 - 既存の共通デバイス設定を選択します。
- [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストで、使用可能にするソフトキーが含まれているソフトキーテンプレートを選択します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** 次のいずれかの作業を実行します。

- 新しい共通デバイス設定を作成してその設定をデバイスに関連付けた後に、デバイスを再起動します。詳細については、「次の作業」の項を参照してください。
- すでにデバイスに関連付けられている共通デバイス設定を変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。

次の作業

[電話機と共通デバイス設定の関連付け](#)

電話機と共通デバイス設定の関連付け

はじめる前に

[共通デバイス設定へのソフトキー テンプレートの追加](#), (6 ページ)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** ソフトキー テンプレートを追加する電話機を検索します。
 - ステップ 3** [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ドロップダウン リストから、新しいソフトキー テンプレートが含まれている共通デバイス設定を選択します。
 - ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 5** [リセット (Reset)] をクリックして、電話機の設定を更新します。
-

電話機とソフトキー テンプレートの関連付け

この手順は任意です。この手順を代わりに使用して、ソフトキー テンプレートを共通デバイス設定と関連付けることができます。また、この手順は共通デバイス設定とも連動しています。ソフトキー テンプレートを適用して、共通デバイス設定での割り当てや、他のデフォルトのソフトキーの割り当てを上書きする必要がある場合に使用します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** ソフトキー テンプレートを追加する電話機を選択します。
[電話機の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストから、新しいソフトキーが含まれているテンプレートを選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** [リセット (Reset)] を押して、電話機の設定を更新します。

[迷惑呼 ID (Malicious Call Identification)] ボタンの設定

このセクションの手順では、迷惑呼 ID ボタンを設定する方法を説明します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	迷惑呼 ID 電話ボタンテンプレートの設定, (8 ページ) .	迷惑呼 ID ボタン機能を回線または短縮ダイヤルキーに割り当てるには、この手順を実行します。
ステップ 2	電話機とボタンテンプレートの関連付け, (9 ページ)	電話機の迷惑呼 ID ボタンを設定するには、この手順を実行します。

迷惑呼 ID 電話ボタン テンプレートの設定

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] を選択します。
[電話ボタンテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Button Templates)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックします。
サポートされている電話のテンプレートの一覧がウィンドウに表示されます。
- ステップ 3** 新しい電話ボタンテンプレートを作成するには、以下のステップを実行します。作成しない場合は次のステップに進みます。
- 電話モデルのデフォルトテンプレートを選択し、[コピー (Copy)] をクリックします。
 - [電話ボタンテンプレート情報 (Phone Button Template Information)] フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。

c) [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 既存のテンプレートに電話ボタンを追加する場合は、次の手順を実行します。

a) 検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックします。

b) 既存のテンプレートを選択します。

[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [回線 (Line)] ドロップダウン リストから、テンプレートに追加する機能を選択します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 7 次のいずれかの作業を実行します。

- すでにデバイスに関連付けられているテンプレートを変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。
- 新しいソフトキーテンプレートを作成した場合は、そのテンプレートをデバイスに関連付けた後にデバイスを再起動します。詳細については、「次の作業」の項を参照してください。

次の作業

[電話機とボタンテンプレートの関連付け](#)、(9 ページ)

電話機とボタンテンプレートの関連付け

はじめる前に

[迷惑呼 ID 電話ボタンテンプレートの設定](#)、(8 ページ)

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。

[電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウで、[検索 (Find)] をクリックします。Cisco Unified Communications Manager で設定されている電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 電話ボタンテンプレートを追加する電話を選択します。

[電話機の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウン リストで、新しい機能ボタンが含まれる電話ボタンテンプレートを選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

電話の設定を更新するための [(Reset)] を押すというメッセージ付きのダイアログボックスが表示されます。

迷惑呼 ID の連携動作と制限事項

迷惑呼 ID の連携動作

表 1: 迷惑呼 ID の連携動作

機能	データのやり取り
会議コール	ユーザが電話会議に接続されている場合、ユーザは MCID 機能を使用してコールに迷惑呼としてフラグを付けることができます。Cisco Unified Communications Manager は、MCID 通知をユーザに送信したり、アラームを生成したり、CDR を更新したりできます。ただし、Cisco Unified Communications Manager は、電話会議に関連している可能性のある接続されたネットワークには、MCID 呼び出しメッセージを送信しません。
エクステンション モビリティ (Extension Mobility)	エクステンション モビリティのユーザは、[迷惑呼 (MCID)] ソフトキーをユーザ デバイス プロファイルの一部として持つことができ、電話機にログインする際にこの機能を使用できます。
コール詳細レコード	CDR を使用して迷惑呼をトラックするには、Cisco CallManager サービスパラメータで、[CDR 有効フラグ (CDR Enabled Flag)] を [はい (True)] に設定する必要があります。コール中に MCID 機能が使用されると、コールの CDR の [コメント (Comment)] フィールドに [CallFlag=MALICIOUS] が書き込まれます。

機能	データのやり取り
アラーム	<p>[ローカル Syslog (Local Syslogs)]内の MCID 機能のアラームを記録するには、Cisco Unified Serviceability でアラームを設定する必要があります。[ローカル Syslog (Local Syslogs)]で、[情報 (Informational)]アラーム イベント レベルのアラームを有効にします。</p> <p>コール中に MCID 機能が使用されると、システムはアラーム内の SDL トレースと Cisco Unified Communications Manager トレースのログを取ります。Cisco Unified Serviceability を使用して、[アラーム イベント ログ (Alarm Event Log)]を参照できます。トレースには、次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Date and time • イベントのタイプ : 情報 • 情報:迷惑呼 ID 機能は、Cisco Unified Communications Manager で呼び出されます。 • 着信側番号 • 着信側デバイス名 • 着信側の表示名 • 発信側番号 • 発信側デバイス名 • 発信側の表示名 • アプリケーション ID (Application ID) • [クラスタ ID (Cluster ID)] • ノード ID (Node ID) <p>アラームとトレースの詳細については、http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html にある『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。</p>
Cisco ATA 186 アナログ電話ポート	Cisco ATA 186 アナログ電話ポートは、機能コード (*39) を使用して MCID をサポートします。

迷惑呼 ID の制限事項

表 2：迷惑呼 ID の制限事項

機能	制約事項
迷惑呼 ID の着信 (MCID-T) 機能	Cisco Unified Communications Manager は、迷惑呼 ID の発信機能 (MCID-O) のみをサポートします。Cisco Unified Communications Manager は、迷惑呼 ID の着信機能 (MCID-T) はサポートしません。Cisco Unified Communications Manager が迷惑呼 ID のネットワークから通知を受信しても、Cisco Unified Communications Manager は通知を無視します。
クラスタ間トランク	Cisco Unified Communications Manager は MCID-T 機能をサポートしないので、MCID はクラスタ間トランクでは機能しません。
Cisco MGCP FXS ゲートウェイ	Cisco MGCP FXS ゲートウェイは MCID をサポートしません。フックフラッシュを受け入れて MGCP で機能コードを収集するメカニズムはありません。
QSIG トランク	MCID は QSIG 標準規格ではないため、QSIG トランクでは機能しません。
Cisco VG248 Analog Phone Gateway	Cisco VG248 Analog Phone Gateway は MCID をサポートしません。
SIP トランク	MCID は SIP トランクをサポートしません。
即時転送	システムは MCID と即時転送機能の同時使用をサポートしません。

迷惑呼 ID トラブルシューティング

迷惑呼 ID をトラックし、トラブルシューティングのために、Cisco Unified Communications Manager SDL トレースとアラームを使用できます。MCID のトラップ設定とトレースについては、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。MCID のレポートを作成する方法

については、『*Cisco Unified CDR Analysis and Reporting* "アドミニストレーションガイド"』を参照してください。

